

「標準外科学アトラス」

編集 三島 好雄 東京医科歯科大学教授
相馬 智 元杏林大学教授
武藤 輝一 新潟大学教授

東京慈恵会医科大学教授

長 尾 房 大

このたび、待望の「標準外科学アトラス」版が上梓された。「標準外科学」の姉妹版である。「標準外科学」を外科学の図書館とでもたとえるなら、本書は、さしずめ外科学の標本館とでも言うことができよう。

およそ1年前、「標準外科学」第4版が出された折、その序の中で、目覚ましい各種の画像診断の進歩に伴って、学生諸君の要望に応えるべく、標準外科学のアトラス版を作成することが約束されていた。むろん、アイディアはしばらく前からあったのであろうが、それにしてもスピーディーな完成である。手にとってみると「標準外科学」と同様、ベッドサイドへも持ち込めるようにとの配慮があり、ノートの感覚が生きている。執筆者は「標準外科学」

とほぼ同じく、それぞれの領域での大家で、新進気鋭の方々ばかりであり、常日ごろ、ベッドサイドでの直接の経験から生まれた画像所見の解釈が、リアルになされている点、至る所で目につく。

疾患の配列順序は「標準外科学」に則り、大体において頭から順次下へ向かって臓器別に扱われていて「標準外科学」で重要とされる疾患が、それと対応して現れてくるので、この2冊を並べて同じ項目をすばやく、簡単に開きやすい。各疾患に対しては、簡潔明瞭にそれらの典型像が画像を中心として呈示され、その読みと解釈、更に外科的治療の方向づけが端的に記述されていて、“アトラス”としての特徴がよく生かされている。印刷技術の進歩とは

言え、X線写真の白黒のコントラストは非常に理想的で、大変きれいであり、細かい所見が、まるで実際のフィルムで見ているごとく明瞭に示されているのは心にくいほどである。特に、エコー像、CT像では病変部の呈示は印刷されると、なかなか難しいものであるが、それを見事にやってのけている。

本書を企画するに当たっては、各執筆者は、①画像のすべてを、フルに活用し、②疾患の典型像に限定し、③1つの疾患で数種以上の画像を呈示する場合、同一配列とし、④所見呈示の順序は実際の臨床で行う検査順位に沿っている、という申し合わせによって統一されているので、執筆者それぞれの個性を保ちながらも全体として一貫した流れを感じさせる見事なアトラスである。是非、目で見ると外科学書として、座右に置かれることをお勧めする。

最後に、このアトラスは将来、各疾患の定型的でない症例も追加されるチャンスがあれば、定型例と相俟って、更にリアルなものになると思われるので大いに期待したい。

B5判、422頁、7,800円、送料400円、1986年

医学書院 刊